

シンポジウム



「男女共同参画～現在・過去・未来」をテーマにシンポジウムを行い、それぞれの立場からの意見や提言をいただきました。

神山 日本国憲法において男女平等をうたっているのに「今、なぜ男女平等なのか？」人権も含めて男女共同参画について考えていきたいと思っています。パネリストの皆さん、現在のお考えをお話してください。

瀬川 サンシャインガイドは、男性でも観光案内的な立場からできないことはないと思い応募しました。いわき市初の男性の目から改革を推進できたものと思っています。

園部 人と人との出会いの場づくりを目標に「女性交流ネットワーク」の組織を形成し、種を蒔いてきました。自分たちが生きていくうえでの課題に、女性の力を活かして対応していきたいと思っています。

小林 企業経営者の中には、女性に対する役割分担の固定観念がまだ残っているのは事実です。企業は第一に、豊かな地域経済をつくるのが大切ですから、地域の女性が活躍できる場や女性の人材活用を考えていく必要があります。

神山 お話の共通部分として、新しいことにチャレンジしている姿が見られますね。

坂東 一人ひとりが、今までの思いこみから脱するイメージチェンジに努めることが大切ですね。

「前に歩み進もうとチャレンジする人」をサポートする。そのことが社会を変えることにつながると思います。新しいことへのチャレンジには失敗がつきまとうものです。失敗を恐れ、何もしないでは前進はしません。

神山 現状の課題解決への提言はございませんか。

瀬川 一つには、官民を問わずトップの理解が

コーディネーター

神山 敬章（いわき明星大学教授）

パネリスト

瀬川 寛（第18代サンシャインガイドいわき）

園部 早由里（いわき女性交流ネットワーク会長）

小林 裕明（いわき商工会議所事務局長）

アドバイザー

坂東 眞理子（基調講演講師 昭和女子大学副学長）



必要なことです。二つには、家庭において男性も自立することです。三つには女性が地域社会にどんどん参画し、発言することです。

園部 女性はライフサイクルの中で、結婚、育児、両親の介護等で仕事を続けることが難しい時があります。これらのことについて、行政で支援の在り方を考えてほしいと思いますね。

小林 男女共同参画。言葉が難しいですね。企業が理解、協力しやすい言葉がないものでしょうか。企業も社員のワーク・ライフ・バランスを考えながら地域や市民の声を大切にし、行政との連携を深め協力していきたいと思っています。

神山 フロアからのご発言はありませんか。

女性 先に行われた企業向けのセミナーでは、市職員と企業の参加者が半々でした。そうやって行政や事業主の理解者の輪を広げることが大切であると思います。



男性 今、若い世代には育児、家事に参加している姿が見られます。20～30年後には、男女共同参画社会はあたりまえになることだと思います。

坂東 結論として、ぜひこの言葉だけは言っておきたい。過去と他人は変えられないかもしれない。でも、未来と自分を変えることができます。